

533. 1. 31 (5)

大野川水系  
浅野川全体計画書

昭30起 浅野川中下河川改修  
昭41完 浅野川導水路  
昭53起 浅野川河道整備

昭和53年5月

石川 梟

# 浅野川全体計画書

## 1. 序

浅野川は高山県境嶺尾山(標高 883m)に源を發し、金沢市の市街地東部を東南から西北方向に貫流し、河北浮間に流入する流路延長 33.8km、流域面積 80 km<sup>2</sup> の 2 級河川である。本河川は過去に於いて、度々の大洪水に見舞われ、多大の被害を蒙り、近年では昭和 28 年 8 月 24 日の前線性の集中豪雨に引着るしく増水し、浅野川に架る橋梁は浅野川大橋を除き全部流失、堤防が壊れ、床上浸水、数百戸山間地帯では家屋の流失、山崩れが發生するなど、甚だ被害を生じている。よって、これ以来、浅野川の根本的治水対策が必要とされ、沿岸住民の強い要望もあり、昭和 30 年 12 月 12 日付中本河川改修事業として認可を受け、金沢市桜町(鈴見橋)～河北浮間の 9.7km の区間を計画高水流量 460 m<sup>3</sup>/sec の改修工事が実施されている。

さらに近年、全国的な傾向として、流域の伐開、流域の都市化等、原因により中本河川のピーク流量が増大した。これ、及び、氾濫区域内の都市化により洪水被害の著しい。

増大が予想されるため、昭和42年、尾川統合開発事業の一環として、浅野川から尾川へ洪水を分流する浅野川導水路の建設が行われ、昭和49年に完成した。

よから浅野川、天神橋地点における基本高水流量を $710 \text{ m}^3/\text{sec}$ とし、浅野川導水路に於て $250 \text{ m}^3/\text{sec}$ を調節するものがある。

## 2. 洪水被害の状況

洪水被害の状況は次表のとおりである。

既往災害調書

表 3 - 1

(単位 千円)

	川				浅野川			
	洪水量	土木災害	一般災害	計	洪水量	土木災害	一般災害	計
27	m <sup>3</sup> /s 597	74,921	270,221	345,142	m <sup>3</sup> /s 370	131,869	378,070	509,939
28	(771)	96,921	325,536	422,457	(574)	633,088	1072,972	1,706,060
32	335	8,119	29,276	37,395	160	4,467	30,048	34,515
33	320	21,103	8,390	29,493	200	6,018	26,374	42,392
34	472	16,709	12,495	29,204	270	50,606	53,619	101,216
35	354	12,059	2,817	14,876	160	-	620	620
36	(710)	356,432	396,593	752,935	200	5,664	136,511	142,175
37	318	11,111	10,369	21,480	167	11,953	18,323	30,376
38	354	21,305	105,204	126,509	347	7,799	151,881	162,680
39	335	65,841	206,062	271,903	(370)	156,654	572,545	729,219
計		684,521	1,366,873	2,051,394		1,008,118	2,453,944	3,462,062

- 註
1. 単価は昭和40年度単価に換算
  2. 洪水量は岨川大橋地点、(浅野川)天神橋地点の洪水量